

実務経験もほとんどないままに、とにかく地域のニーズに応える手続代理業務を始めてから、そろそろ満2年になる。結果の早い商標・意匠では、まずまずやっとなりがちで、最近受けた初の特許出願、拒絶理由通知に対しては、「いよいよこれからだな」と気を引き締め直し、逐一先輩の指導を受けながら、なんとか外国の諸手続を進め、無料相談対応、時折の講演や高校での臨時講義などに喉を枯らすうち、日々が過ぎていく。ふと気がつく、兼務している産業支援会社での担当業務は、旧年度事業の成果報告作成と、新年度事業の仕込みの時期になっている。

「弁理士像」の確立。2年前、右も左もわからなかった試験合格直後の頃を思えば、ようやく自分の歩幅については掴めてきたのかな、と最近思えるようになった。当時からお世話になっている大先輩からは、「来た依頼は、絶対断ってはダメだよ」と教えられ、その都度その都度わからないところは勉強しながらやってきたのだが、ここに来て、なんとか自分にもできること、残念ながら自分にはできないこと、そして自分の立場としてなすべきことが、徐々に見えだしてきたように思う。

自分という弁理士、あるいは、弁理士でもある自分は、この先10年どう歩くのだろう。

2003～2004年（～46歳）

- (1) 急増するであろう中間手続を通して、弁理士業務の体得を続ける。
- (2) 地域発ベンチャー・新規プロジェクトに、勉強のため積極的に参加する。
- (3) 知財啓発の講演・研修実施の、自分なりのスタイルを確立する。
- (4) 使える外国語を増やす勉強を始める。
- (5) 社としては、地域知財支援体制を整備し、色々なメニューを試行錯誤する。
- (6) 一方、私生活では、受験のためしばらく控えていた、趣味の作詞作曲活動を再開し、以前はときどき行っていたギター弾き語りライブも復活させたい。きっと、業務にもよい影響があるはずだ、と思っている。
- (7) 健康管理の方法を確立する。

2005～2007年（～49歳）

- (1) 当地域における特許事務の体系・拠点をとりあえず確立し、さらに新しい仲間を増やすための準備にも、多少は力を向けられるようにしたい。
- (2) 社としては、知的財産支援のための機能を、おおまかに固めたい。

2008～2013年（～55歳）

- (1) 知財面における地域支援機能確立の取り組みを、一段落させる。
- (2) これから新たに、何を勉強できるのか、勉強するべきなのか、方向を決める。

7年前、弁理士を目指して勉強を初めて以来、折りに触れて自分の生き方を確かめるための言葉がある。通信教育のテープで聞いた、先輩弁理士からいただいた言葉である。

「世の中に 播かずに生える例もなく 学びてやこそ 運ぞ開けん」

今、何を勉強するのか。これから、何を勉強するのか。近未来の自分からの要求を感じることができる、そういう者になりたいと思う。